

令和4年5月27日  
危機管理部

## 令和3年度防災塾の実施状況及び今後の取組み等について

### 1 主旨

区は、平成26年度より「発災後72時間は地区の力で乗り切る」をスローガンに掲げ、区内各地区において防災塾を展開している。

今般、防災塾の令和3年度実施状況及び今後の取組みについて取りまとめたので報告する。

### 2 令和3年度防災塾実施状況

#### (1) 実施主体

災害対策課、各総合支所地域振興課、各まちづくりセンター

#### (2) 参加者

町会・自治会、民生・児童委員、PTA、商店街、社会福祉協議会、あんしんすこやかセンター、消防団等

#### (3) 実施内容

国立研究開発法人防災科学技術研究所、せたがや防災NPOアクション、世田谷ボランティア協会等の職員を講師に迎え、地区防災計画に掲げた課題と対応策の検証や取組みを実施。

詳細は、「令和3年度防災塾報告書」を参照。

#### (4) 最近の実績

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施予定箇所数	28箇所	28箇所	28箇所
実績	26箇所	18箇所	27箇所

### 3 今年度の取組み

#### (1) 概要

地区防災計画の検証・ブラッシュアップを目的として、各地区の実情にあわせて、ワークショップ方式をはじめ、図上訓練やまち歩き等の多様な手法を用いて実施する。

#### (2) 在宅避難の推進と指定避難所運営の見直しについて

- ・実施にあたっては、適切な避難行動の知識（在宅避難の原則）や在宅避難のための家庭での備えなどの普及・啓発をあわせて行うものとする。
- ・また、指定避難所運営の見直しに向けた取組みをあわせて周知することにより、避難所運営にかかる課題への理解と、運営への協力を地区で広げるための機運醸成に努めるものとする。

#### (3) 今年度の実施日程（予定）

裏面参照

#### (4) その他

実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底するとともに、書面開催方式やオンライン、動画配信などを用いた開催等の手法を取り入れる工夫を行う。

## 令和4年度防災塾の実施日程（予定）

（令和4年5月27日現在）

地域	地区	日程	時間	場所
世田谷	池尻	（調整中）		池尻まちづくりセンター
	太子堂	1月14日（土）	9:30～	三茶しゃれなあとホール（世田谷区民会館別館） 集会室（スワン・ビーナス）
	若林	4月15日（金）	9:30～	若林まちづくりセンター
	上町	12月3日（土）	（調整中）	上町まちづくりセンター
	経堂	2月（調整中）		桜丘区民センター
	下馬	11月12日（土）	10:00～	下馬区民集会所
	上馬	2月25日（土）	（調整中）	上馬地区会館
北沢	梅丘	6月2日（木）	14:00～	梅丘パークホール
	代沢	（調整中）		
	新代田	11月6日（日） または 11月13日（日）	（調整中）	新代田まちづくりセンター 地下体育室
	北沢	（調整中）		
	松原	（調整中）		
	松沢	（調整中）		
玉川	奥沢	（調整中）		奥沢まちづくりセンター
	九品仏	（調整中）		九品仏まちづくりセンター
	等々力	（調整中）		
	上野毛	（調整中）		
	用賀	（調整中）		
	二子玉川	（調整中）		
	深沢	（調整中）		
砧	祖師谷	（調整中）		
	成城	（調整中）		
	船橋	（調整中）		船橋まちづくりセンター
	喜多見	（調整中）		
	砧	（調整中）		
烏山	上北沢	1月21日（土）	（調整中）	
	上祖師谷	12月3日（土）	9:00～	粕谷区民センター
	烏山	12月10日（土）	（調整中）	烏山区民センター

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況によっては変更となる場合ある

# 令和3年度 防災塾 報告書

世田谷区

# 目 次

## 防災塾概要

頁

防災塾概要	1	防災塾参加団体・主な講師	3
令和3年度 防災塾 実績一覧	2		

## 防災塾 報告書

### 世田谷地域

池尻	4
太子堂	19
若林	24
上町	32
経堂	35
下馬	39
上馬	43

### 北沢地域

梅丘	50
代沢	51
新代田	63
北沢	68
松原	72
松沢	78

### 玉川地域

奥沢	97
九品仏	101
等々力	112
上野毛	114
用賀	124
二子玉川	148
深沢	180

### 砧地域

祖師谷	222
成城	224
船橋	228
喜多見	238
砧	240

### 烏山地域

上北沢	246
上祖師谷	263
烏山	269

## 防災塾概要

### 1 趣旨

区では、新実施計画において、「地区防災計画」の策定等の支援を目指して、防災塾を展開していくこととしている。

平成26年度の防災塾については、「発災後72時間は地区の力で乗り切る」をスローガンに掲げ、区の地域防災計画上の防災資源や被害想定等を確認したうえで、区内27地区において災害時に想定される様々な課題発見を行った。

平成27年度は、前年度に議論した災害時に想定される様々な課題に対する対応策の検討を中心に実施し、平成28年度は、これまでの議論を踏まえ、地区防災計画（案）を作成した。

平成29年度以降は、地区防災計画に掲げた課題と対応策の検証や取組みを実施し、令和3年度においては、修正された地区防災計画を踏まえた取組みを行ったところである。

### 2 実施内容

#### (1) 実施主体

災害対策課、各総合支所地域振興課、各まちづくりセンターが役割に応じて運営。

#### (2) スローガン

「発災後72時間は地区の力で乗り切る」

#### (3) 実施内容

地区防災計画に掲げた課題と対応策の検証や取組みの実施等

#### (4) 対象者

地区情報連絡会メンバー及び公募等による区民

### 3 スケジュール

#### (1) 防災塾実施 令和3年度防災塾実績一覧参照

#### (2) 報告会

地域	日程	開催場所等
世田谷	令和4年3月23日（水）	区民防災会議の第2回総会（書面開催）
北沢	令和4年3月17日（木）	第2回北沢地域区民防災会議後
玉川	令和4年3月15日（火）	第2回玉川地域区民防災会議（書面開催）
砧	—	令和4年度に延期して開催予定
烏山	令和4年3月23日（水）	第2回烏山地域区民防災会議

## 令和3年度 防災塾 実績一覧

(敬称略)

所属	日程	時間帯	講師等	場所	参加人数	
世田谷	池尻まちづくりセンター	書面開催	-	せたがや防災NPOアクション	-	41
	太子堂まちづくりセンター	1月15日(土)	午前	一般財団法人 都市防災研究所 守茂昭 一般社団法人 日本災害食学会 守真弓	三茶しゃれなあと スワン・ビーナス	25
	若林まちづくりセンター	書面開催	-	講師なし	-	-
	上町まちづくりセンター	12月19日(日)	午前	株式会社電通サイエンスジャム 野村 昌子	上町まちづくりセンター 3階活動フロア	21
	経堂まちづくりセンター	1月16日(日)	午後	NPO法人日本防災士会東京都支部 支部長 松井 正雄	桜丘区民センター 集会室兼体育室	23
	下馬まちづくりセンター	11月13日(土)	午前	せたがや防災NPOアクション	下馬区民集会所 3階会議室	51
	上馬まちづくりセンター	11月28日(日)	午後	一般社団法人世田谷薬剤師会 顧問 小林 哲男	上馬まちづくりセンター 活動フロア	21
梅丘まちづくりセンター	※新型コロナウイルス感染症の影響により中止					
北沢	代沢まちづくりセンター	11月25日(木)	午後	せたがや防災NPOアクション	代沢まちづくりセンター 活動フロア	34
	新代田まちづくりセンター	11月14日(日)	午後	せたがや防災NPOアクション	新代田まちづくりセンター 地下体育室	23
	北沢まちづくりセンター	2月17日(木) 3月27日(日)	午後	せたがや防災NPOアクション	北沢中学校 視聴覚室 池之上小学校 家庭科室	28
	松原まちづくりセンター	12月11日(土)	午後	せたがや防災NPOアクション	梅丘パークホール	89
	松沢まちづくりセンター	11月2日(火)	午後	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 李 泰榮	日本大学文理学部 本館 会議室A B	31
	奥沢まちづくりセンター	2月1日(火)	午後	せたがや防災NPOアクション	奥沢まちづくりセンター 活動フロア	26
玉川	九品仏まちづくりセンター	書面開催	-	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 李 泰榮	-	-
	等々力まちづくりセンター	3月23日(水)	午前	講師なし	等々力まちづくりセンター 活動フロア	18
	上野毛まちづくりセンター	3月17日(木)	午後	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 李 泰榮・池田 真幸	上野毛まちづくりセンター 活動フロア	18
	用賀まちづくりセンター	書面開催	-	講師なし	-	30
	二子玉川まちづくりセンター	動画配信	-	目黒星美学園中学高等学校のみなさん	-	605
	深沢まちづくりセンター	動画配信	-	NPO法人日本防災士会東京都支部 支部長 松井 正雄	-	42
	祖師谷まちづくりセンター	①3月6日(日) ②3月29日(火)	①午前 ②午後	東京防災学習セミナー	祖師谷まちづくりセンター 活動フロア	23
砧	成城まちづくりセンター	12月4日(土)	午前	東京消防庁 成城消防署 警防課 防災安全 係 地域防災担当係長 太田 敏郎	砧総合支所1階 多目的ホール	33
	船橋まちづくりセンター	書面開催	-	講師なし	-	36
	喜多見まちづくりセンター	11月9日(火)	午後	そなエリア東京防災体験学習ツアーガイド	東京臨海広域防災公園 (そなエリア東京)	16
	砧まちづくりセンター	3月24日(木)	午後	NHK放送研修センター日本語センター エグゼクティブ・アナウンサー 畠山 智之	成城ホール	63
	上北沢まちづくりセンター	書面開催	-	社会福祉法人世田谷ボランティア協会	-	70
烏山	上祖師谷まちづくりセンター	12月11日(土)	午前	せたがや防災NPOアクション	粕谷区民センター 多目的室	36
	烏山まちづくりセンター	書面開催	-	社会福祉法人世田谷ボランティア協会 せたがや災害ボランティアセンター	-	64
	合計					1467

## 防災塾参加団体について

地区の特性に合わせて以下のような様々な団体が参加している。

町会・自治会、身近なまちづくり推進協議会、民生・児童委員、おやじの会、PTA、商店街、社会福祉協議会、あんしんすこやかセンター、消防団、消防署、警察署、NPO、ボランティア団体、小学校、中学校、高校、区内大学、事業所、赤十字奉仕団、公募による区民等

## 防災塾の主な講師について

### □世田谷ボランティア協会

『せたがや災害ボランティアセンター』は、2005年に開設され、“いつかくる”大災害に備えて、「防災」「減災」「災害時にボランティアを受け入れるシステム作り」などに取り組むために常設された組織である。震災時に災害ボランティアと被災した人の要望を『つなぐ』マッチングコーディネーターを養成するため、大学や町会・自治会等と協力して養成講座を行っていく。

### □せたがや防災NPOアクション

平成26年度に、主に区内のNPO同士が、平時から連携して震災対策に臨むことを主旨として設立した。区内で活動するNPOが震災時の応急対策において、どのような位置付けで活動するのかをテーマに、区内NPO等に参加を呼びかけ、事前に顔と顔が見える関係を構築できるような取組みを推進している。

### □国立研究開発法人 防災科学技術研究所

災害から人命を守り、災害に強い社会の実現を目指している研究所。災害発生メカニズムの解明、災害発生による被害の軽減策、個人・地域・行政がそれぞれ持っている知識・知恵を合わせて「防災」を計画・実行する手法やシステムの研究開発を行っている。世田谷区の防災塾において、地域住民自らが災害時の地域課題と対策を検討することができる「地区防災計画作成手法」と、それを支援するツール「地域防災キット」を各区に提供・支援している。

## 令和3年度 池尻地区防災塾 実施報告書

世田谷総合支所地域振興課  
池尻まちづくりセンター

### (1) 実施日、会場

新型コロナウイルス感染症の影響により、書面開催

※当初は令和4年2月15日（火曜日）午後3時より、池尻まちづくりセンター地下1階第1会議室にて開催予定だったが、書面開催に変更した。

### (2) 講師

せたがや防災NPOアクション 宮崎 猛志 氏

### (3) 参加予定者数：41名

参加予定団体：管内8町会・自治会、太子堂二丁目大塚町会、地区民生・児童委員協議会、池尻・三宿・多聞小学校、同PTA、世田谷警察署、世田谷消防署三宿出張所、世田谷消防団第一分団、あけぼの学園、三宿つくしんぼホーム、食糧学院、池尻介護保険サービス、もみの木ケアセンター、日赤池尻分団、小規模多機能ホーム三宿、デイホーム三宿、池尻あんしんすこやかセンター

### (4) テーマ

ウィズコロナ時代のコミュニティ防災『避難所運営の実際と避難生活を考える』

### (5) 実施内容

上記のとおり、書面開催に変更したため、参加予定団体に対して資料を送付し、必要に応じて質疑応答対応を実施。

### (6) 成果物

別紙「令和3年度防災塾」資料のとおり。



3年度

# 防災塾

ウィズコロナ時代のコミュニティ防災  
『避難所運営の実際と避難生活を考える』

## せたがや防災NPOアクション

© 2021 せたがや防災NPOアクション 無断転載禁止

## せたがや防災NPOアクション

せたがや防災NPOアクション

区内のNPO団体が、平時より顔の見える関係を築くとともに、発災時においてNPO団体同士の連携が図られるよう、ネットワーク化することを目的に、2014年5月に発足しました。ひっ迫する首都直下地震、激甚化する台風に備え、地域のみなさまとともに、私たちのまちを、災害に強い世田谷をめざし、一緒に活動する仲間を増やしていきたいと考えています。

- 活動テーマごとの分科会の実施－運営
- 全体会の企画・立案・実施
- 訓練（図上演習、情報連絡訓練）の実施
- 区内・区外の支援団体との関係づくり
- 防災塾、イベント・訓練等、地域の方との連携関係づくり
- 4者（区、社協、ボラ協、NPO）による連携体制への協力

○実は、昔から基本は在宅での避難生活だった！

～阪神大震災、東日本大震災の避難生活を振り返って～

○コロナ禍を逆手に取った避難所運営のススメとその準備

○避難所から、被災者支援拠点に！

© 2021 せたがや防災NPOアクション 無断転載禁止

## 皆さんにとっての避難所のイメージ

せたがや防災NPOアクション



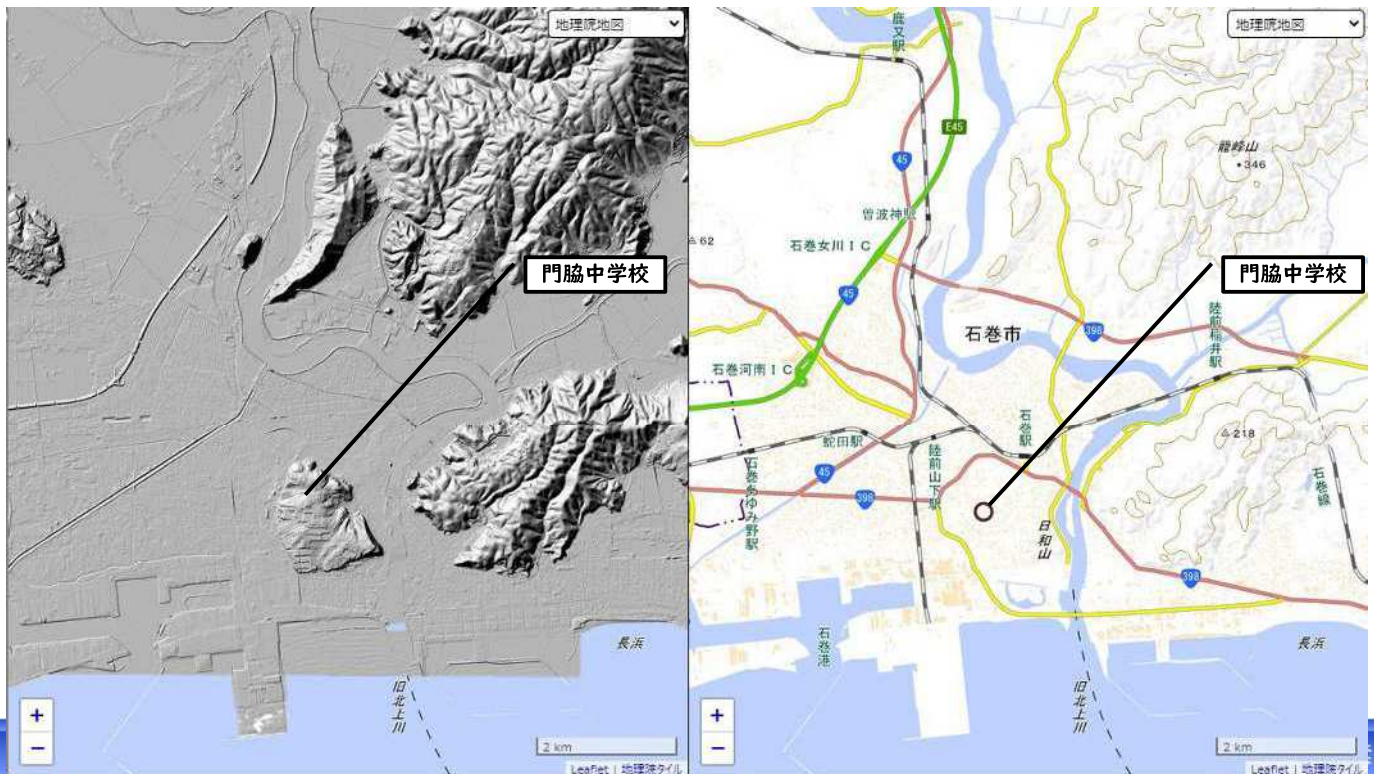


ここで皆さんに質問です。

この、石巻市立門脇中学校は、市内の高台にあります。

海沿いの方々が多く避難されていますが、学校周辺の方はほとんどいません。

【どうしてでしょうか？】



停電、断水していたとしても、

「津波で家が流されていない方は、在宅での避難生活を選択しています」

みなさんは、家が無事でも、この写真のような体育館でも、

避難所に入れてくれと言いますか？







## 1995年 阪神大震災

○避難人数（ピーク時）：316,678人

住家被害：全壊104,906棟、半壊144,274棟

全半壊合計249,180棟（約46万世帯）、一部損壊390,506棟

\*震災直前の1995年（平成7年）1月1日の神戸市の推計人口

## 152万0365人

\*一部損壊（+半壊世帯の一部）→どこで避難生活？

## 『避難行動』と『避難生活』 この違いを意識しましょう！

### 【地震の場合】

家の周りはどうなっているの？・・・一時集合場所  
 火事が起きて延焼が始まっている！・・・広域避難場所  
 自宅が壊れて生活できない！・・・公設避難所

ここまでが『避難行動』  
 ここからが『避難生活』

どこで『避難生活』を送りますか？  
 自宅 or 避難所 or ???

## 《災害救助法での救助対象者の定義は？》

救助の対象（第2条）は、「災害によって被害を受け、現に救助を必要とするもの」

⇒避難所に避難した被災者だけに限定していない。

⇒自宅、勤務先などにいても、救助を必要とする場合は支援対象となる。

▼「救助を必要とする場合」とは ⇒ ライフラインの停止

## 「在宅避難」とは

災害が発生したときに、あなた自身や家族にケガがなく、住居にも危険な損傷がなければ、多少不便であっても、自宅で避難生活を送ることです。  
住み慣れた家で暮らすことによってストレスが減り、心身の健康を保ちやすくなるというメリットがあります。（世田谷区HPより）



災害関連死の予防

## 「分散避難」とは

大勢が「指定避難所」に密集する避難生活状態を避けるために、「在宅避難」  
含め、「自主避難」「縁故避難」「疎開避難」「車中避難」「庭先避難」といっ  
た、避難生活時の命を守るための選択肢を確保しておくことが大切。



災害関連死の予防

## 近年の自然災害時の避難生活について

### 「静岡県熱海市の土石流」

新形コロナ感染拡大による休業中だった、市内の観光ホテル2カ所を避難所として使用。  
最初は市役所近くの施設。空き部屋の床にマットを敷いただけの簡素な設備。

### 「佐賀大雨8/11～14（武雄、大町、嬉野）」

公民館、福祉センター、小中学校など、普通の避難所。  
20日から、公営住宅の一時的な仮入居受付 → 長期避難所扱い

### 「（2020年）熊本県球磨川氾濫」

指定避難所だったところが数カ所浸水したため、  
屋根だけの避難所で過ごす。

- その後中学校などに移送。  
避難所運営をNPOに委託。



### 「（2019年）房総半島台風」

夏場（9月）長期間にわたる停電による、体調不良対策。情報ツールが  
使用できないストレス。



○実は、昔から基本は在宅での避難生活だった！

○コロナ禍を逆手に取った

避難所運営のススメとその準備

○避難所から、被災者支援拠点に！

© 2021 せたがや防災NPOアクション 無断転載禁止

## コロナ禍における避難所について考える

せたがや防災NPOアクション

### 新型コロナウイルス 避難生活お役立ちサポートブック

JVOAD（認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク）

第4版（2021年5月26日）

ゾーニングや受付設置方法、入室時の健康チェック表など図解・解説が掲載されていますので、ダウンロードしてご覧ください。



<http://jvoad.jp/guideline/>

1. 避難所に行かない（在宅避難）

2. 屋外避難を黙認する（車中泊、テント）

3. 隣の隣町くらいに脱出（越境避難、疎開避難）

© 2021 せたがや防災NPOアクション 無断転載禁止

帰宅困難者、滞留者について

せたがや防災NPOアクション



支援施設を知っておこう！

施設	設置時期	支援次項
一時滞在施設	発災から最大3日程度	避難所に準じる。
帰宅困難者支援施設	発災から24時間程度まで	飲料水、トイレ、休憩所
災害時帰宅支援ステーション	発災後、都からの要請	飲料水、トイレ、支援情報

【一時滞在施設】 国際高校、駒場高校、松原高校、世田谷市場、世田谷総合高等学校、駒沢オリンピック公園総合運動場、総合工科高等学校、園芸高等学校、深沢高等学校

【帰宅困難者支援施設】 太子堂区民センター、上馬地区会館、代田区民センター、上北沢区民センター、経堂地区会館、北沢総合支所、深沢区民センター、桜新町区民集会所、砧区民会館成城ホール、大蔵第二運動場ロビー、烏山区民センター、世田谷郵便局

【災害時帰宅支援ステーション】 →





1. 看板の作成（在宅避難の指示）

2. 避難所運営計画の見直し（ゾーニング）

3. 受け入れ態勢の整備（受付、衛生・感染対策）

4. 協力の呼びかけ（回覧板、掲示板）

## 1. 看板の作成

(例)

避難されてきたみなさまへ

新型コロナウイルスに対する感染  
予防とクラスター対策の一環で、  
〇〇〇学校避難所では、火事で焼け  
出された、家屋が倒壊したなど  
やむを得ない事情がある方のみ、  
受け入れいたします。  
自宅が無事な方は全員「在宅避難」  
生活をお願いいたします。

〇〇〇学校避難所運営委員会  
委員長 世田谷 太郎

(例)

帰宅困難者、駅前滞留者のみなさま

〇〇学校避難所は、地域住民に向けて開設された避難所です。

帰宅困難者向け避難所は「国際高校、駒場高校」です。

また、休憩や各種支援情報は「太子堂区民センター、上馬地区会館」で提供されます。

その他、◇◇や××が支援ステーションとなっています。受付で地図をお渡しします。ご協力をお願いいたします。

〇〇〇学校避難所運営委員会  
委員長 世田谷 太郎

## 2. 避難所運営計画の見直し

### 収容場所の見直しと居住区分の設定（ゾーニング）

ゾーン	状態	対応
A	咳・発熱等 感染の疑いがある人	暫定的に専用の部屋を準備 <u>移送支援依頼</u>
B	濃厚接触者	症状がある人の家族で無症状の人も暫定的専用部屋、Bゾーンで（間隔に配慮） <u>移送支援依頼</u>
C	自宅療養者	暫定的に専用の部屋を準備 <u>移送支援依頼</u>
D	要配慮者	暫定的専用部屋か、一般のスペース内に福祉避難スペースを確保 <u>母子・福祉避難所への移送依頼</u>
E	その他一般の人	一般の避難スペースへ

手指の消毒・・・手洗い→乾燥→アルコール

手洗い水の確保（防災用井戸など）  
石鹼を持ちよる

ふき取り清掃・・・手袋→アルコール→ペーパータオル

スーパーの袋を持ち寄る  
次亜塩素酸ナトリウム溶液の作成（注意事項多い）  
（拭き掃除0.05%、500mlにキャップ1杯）

その他・・・段ボールの備蓄→パーティション用  
養生テープなどの備蓄  
ゴミ袋の備蓄  
感染予防着の準備

### 4. 協力の呼びかけ

回覧板、掲示板で協力の呼びかけ

○在宅避難のお願い

○避難所(サテライト)運営のお手伝いのお願い(在宅避難者で)

○物品の持ち寄りのお願い

- ・体温計
- ・塩素系漂白剤
- ・台所用洗剤、石鹼
- ・スーパーの袋
- ・ペーパータオル、タオル、手ぬぐい
- ・段ボール、養生テープ、PPロープ、はさみ等
- ・そのほか、必要な物

※運営者側を支援するためのもの

1. 移送手段の確保、体制づくり(行政)

2. 衛生物資の配布、長期避難所の確保(行政)

3. 在宅避難者への物資、情報提供体制づくり

4. 避難所の在り方の検討、刷新

○実は、昔から基本は在宅での避難生活だった！

○コロナ禍を逆手に取った避難所運営のススメとその準備

○避難所から、被災者支援拠点に！

～過去の被災地での事例から、  
参考にできる取り組みはないだろうか～

## ～避難場所から被災者支援拠点へ～

【耐震化、不燃化の促進】 → 避難しなくていい街づくり  
→ 在宅避難によるストレスフリー

【特別なケアが必要な方】 → 避難所での集中対応が可能  
→ 次善の在宅避難者サポート

※在宅避難の課題は

・・・孤立、情報弱者、支援の偏り、見落とし、食、初期医療・治療の遅れ、肉体・精神的疲労．．．etc

### 過去の被災地の写真から

## 見えやすい困り事

- ・妊産婦、乳幼児・・・母子避難所の案内は？
- ・障害者、要介護者・・・福祉避難施設への移送は？人数は？
- ・持病のある方・・・診察可能な病院や処方薬の入手方法は？
- ・外国人・・・宗教上の課題は？相談窓口は？=どこにつなぐ？

## 見えにくい困り事

- ・公的支援プログラム情報がわからない、罹災証明って？
- ・家の中の片づけは？
- ・子供を持つ世帯のどのくらいがアウエー育児か？
- ・食物アレルギー、アナフィラキシー既往症の方は？
- ・内疾患、精神疾患、普段は薬で対応できていた方は？
- ・装身具や介護器具等の不具合は？
- ・プライバシー保護、性犯罪防止、治安を守るためには？
- ・ジェンダーギャップやLGBT理解は？・・・etc

# 被災者支援拠点を支援する

避難所・被災者支援拠点の運営にかかわる方々、外部支援を頼ってください。

「誰が、何に困っているか」という個人情報はいりません。

「どんなことに困っている人が、何人くらい、いつまでにどれだけ増え・減りそうか」というニーズ情報をください。

世田谷が被災したときの外部支援団体の窓口は  
**「せたがや防災NPOアクション」**が担います。

拠点は、世田谷線山下駅隣接の「たまでんカフェ山下」  
電話番号：03-5426-3737 FAX：03-5426-3738  
(平時はFAX専用、発災時は電話回線としても使用)



## 防災塾 実施報告書

世田谷総合支所地域振興課

太子堂 まちづくりセンター

(1) 実施日 4年1月15日(土曜日) 午前9時30分～11時

(2) 場所 三茶しゃれなあと スワン・ビーナス

(3) 参加人数 25人

(4) テーマ

i 災害時に備えた家庭での食料備蓄

(5) 実施内容

### ①講師説明

- ・地域の被災と災害時の食の課題
- ・避難所の外での被災生活のための備蓄と生活の工夫(パッキング)
- ・災害食の紹介・展示

### ②令和3年度以降の取り組み案検討

- ・在宅避難の周知
- ・各家庭での備蓄物品の検討

### ③講評

- ・災害時は個々の想像力が必要。食についても個別性や好みを考慮し、生き延びるための工夫をこらしてほしい。
- ・被災地で生活していた人からも、災害時とはいえ毎日同じ食べ物では飽きるとの声を聴いている。今回の講演を活かし、参考にしていきたい。

(6) 成果物

### ①地域の被災と災害時の食の課題



## ②災害食の紹介・展示



## ③講評





## 【集計結果】令和3年度 太子堂地区防災講演会 アンケート

令和4年1月15日(土) 午前9:30～  
三茶しゃれなあと スワン・ビナス  
参加者 25名(アンケート回収 25)

### テーマ：「災害時に備えた家庭での食料備蓄」

本日はご参加いただき、ありがとうございました。最後に講演会についての感想をおたずねします。

#### 1 講演内容はいかがでしたか。(○をつけてください)

①よかった・・・20      ②まあまあだった・・・3      ③よくわからなかった・・・1

(理由)

- ①・備蓄でゆとりを持ち、ゆとりのない方の支援に回すという考え方から、さらに備蓄の大切さを理解できた。
- ・災害生活に密着した食品を具体的に理解できた。
  - ・パッククッキング等始めて知ることがあった。
  - ・時期的にコロナの感染状況が芳しくない時期であり、全国に地震が発生していることから、町民に伝達する材料が増えた。
  - ・非常に勉強になりました。
  - ・少しは知っているつもりだったが、新たな気づきがあり良かったと思う。
  - ・わかりやすかった。
  - ・具体的な調理方法を教えてもらったこと。
  - ・食事に対し、普段ほとんど気をつかわない自分としては、今回のテーマは大変興味深いものがありました。
  - ・大変よかった。
  - ・水の備蓄、レトルトの中でおかゆなど水分を含むものを保存することを大事だと感じた。
  - ・通常の防災訓練と違い、家で気軽に試すことができます。被災後の実用的な生活方法を知るのも重要と思います。
  - ・具体的でよかった。
  - ・パッククッキングは、自宅でもやってみたいと思った。
- ②・とても身近なことで、食というものを大切だと再認識させるお話である。今回集まった人達は色々勉強しているので、もう少しつっこんだ深い話をしてほしかった。
- ・初めて耳に入れたので参考になりました。体験したいと思います。
- ③・無駄話が多い印象

#### 2 講演時間はいかがでしたか。(○をつけてください)

①もっと聞きたかった・・・0      ②ちょうどよかった・・・22      ③長かった・・・2

#### 3 講師の方の印象はいかがでしたか。

①よかった・・・21      ②まあまあだった・・・2      ③よくなかった・・・1

4 災害の備え(食料備蓄)をしていましたか。(○をつけてください)

①していた・・・15 ②しようと思っていたがしていない・・・9

③しようと思っていなかった・・・0

5 現在、食料備蓄をされている場合は、可能な範囲で結構ですので内容や量についてお書きください。

- ・ ミネラルウォーター20ℓ 炭酸水 15ℓ ビール 350 ml×2箱、乾麺、パスタ、うどん、カップ麺 24個、缶詰色々
- ・ レトルト中心に、水は必ず
- ・ 缶詰ほか
- ・ 水 20ℓ スパゲッティ、レトルト商品少々、缶詰 3缶
- ・ 水、米(レトルト)、缶詰 3日分
- ・ 少々
- ・ 水、食品、衣類、一般的な防災用品等々
- ・ レトルト、缶類、乾麺、長期保管用の羊羹、ビスケット
- ・ 水 2ℓ×2箱、レトルト食品(米、おかゆ、みそ汁)、防災食、ビスケット
- ・ ローリングストックしている。缶詰類、調味食、水などと、会社から賞味期限切れで配布される長期保存用ビスコなど
- ・ レトルトパック(米、スパゲッティルー)、乾パン、缶詰(サバみそ缶、ツナ)、水、野菜ジュースなど1週間分弱2名分
- ・ 現金、下着、衣料、パン、懐中電灯、衛生用具、簡易トイレ、水等をリュックに入れ、家族一人一人分を用意し、玄関倉庫に格納している。
- ・ 水、レトルト食品、缶詰、カップ麺、菓子
- ・ 水、缶詰
- ・ 水、米、缶詰
- ・ 水 50ℓほど
- ・ レトルトカレー、パスタソース

6 パッククッキングを知っていましたか。(○をつけてください)

①知っていた・・・7 ②知らなかった・・・17

7 パッククッキングをこれからやってみようと思いますか。(○をつけてください)

①やってみたい・・・14 ②検討したい・・・9 ③やりたくない・・・2

8 今後どのような講演(防災関連で)を聞いてみたいですか。

- ・ 実際に被災した人達の具体的な体験談
- ・ 町会としての備蓄品はどの様なものを備蓄したらよいのか
- ・ 防災訓練、いざという時の行動
- ・ 必要と思われることであれば全て
- ・ 災害時のための料理教室
- ・ 在宅生活に特化した内容
- ・ 災害発生時の近所の対応、地域の状態の報告等
- ・ 発災直後でなく、避難の長い期間中に役立つ情報も知りたいと思います。今回のような食

- 事、トイレ、就寝に関すること
- 避難所の運営について、感染者の区分、使用場所等を明確に行政でアドバイスしてほしいので、今回はこれらを入れてほしい
- 想像力をつけるようなこと

9 その他、ご意見などございましたらご記入ください。

- 参加者が多くなる工夫をしてほしい。皆様の意識向上につとめてほしいです(区民、一般大衆)
- コロナ禍でのことが必要
- 備蓄はしているが、缶詰以外、普段食べていないので賞味期限が切れている。改めて見直そうと思いました。いつくるかわからない災害、自分のためだけでなく、地域で話し合っていかなければならないと思う。
- ありがとうございます。
- 特にありませんが、専門用語はさけて講義してほしい
- 避難所運営訓練ができたと思います

ご協力ありがとうございました。

## 防災塾 実施報告書

世田谷総合支所地域振興課  
若林まちづくりセンター

(1) 実施日 令和4年2月17日(木) 書面開催

(2) 経緯

- ・若林・三軒茶屋地区では、地区防災計画の中で「避難行動要支援者の安否確認」を定め、毎年計画に基づいて「安否確認訓練」を実施している。今年度も令和3年10月7日に訓練を行った。
- ・見守りのネットワークを拡げ、より実効性のある取り組みにつなげるため、訓練の振り返りと、福祉と防災をテーマにした鍵屋一先生の講義による防災塾を令和4年2月10日に実施する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴うまん延防止等重点措置により、講義形式の防災塾が延期となった。
- ・代案として、まちづくりセンターから避難行動要支援者安否確認訓練の実施結果と課題について2月17日の地区情報連絡会内で報告・意見交換を行う予定であったが、17日の地区情報連絡会も書面開催となった。
- ・なお、今回の訓練の振り返りを踏まえた講義形式の防災塾を令和4年度に対面で実施する予定である。

(3) 成果物

「令和3年度 若林・三軒茶屋地区避難行動要支援者安否確認訓練について」

# 令和3年度 若林・三軒茶屋地区 避難行動要支援者 安否確認訓練について

【地区情報連絡会・防災塾用】  
若林まちづくりセンター

## 若林まちづくりセンター管内 避難行動要支援者支援事業の現状

- ▶ 若林町会（平成23年～）、三軒茶屋町会（平成25年～）が協定を締結中
- ▶ 若林管内での避難行動要支援対象者（令和3年7月30日現在）  
264名
- ▶ 要支援者のうち、同意者名簿に登載している方（令和3年2月末現在）  
若林町会 115名 三軒茶屋町会 38名  
全体の同意率 約58%

## 避難行動要支援者安否確認訓練

### 経緯

- 平成28年 若林・三軒茶屋地区防災計画を策定。策定にあたり、災害時の見守り団体を拡大し、町会以外の福祉団体にも安否確認に参加してらう必要があるという議論がされた。
- 安否確認団体に管内の介護事業者を加え、見守りのネットワークを広げた。
- 平成29年 この見守りのネットワークを基盤とし、安否確認を行う団体が参加する安否確認訓練を実施以降毎年行っている。

### 目的

安否確認を行う団体と、若林まちづくりセンターで、安否確認方法の流れなどについて共通認識を図るために実施

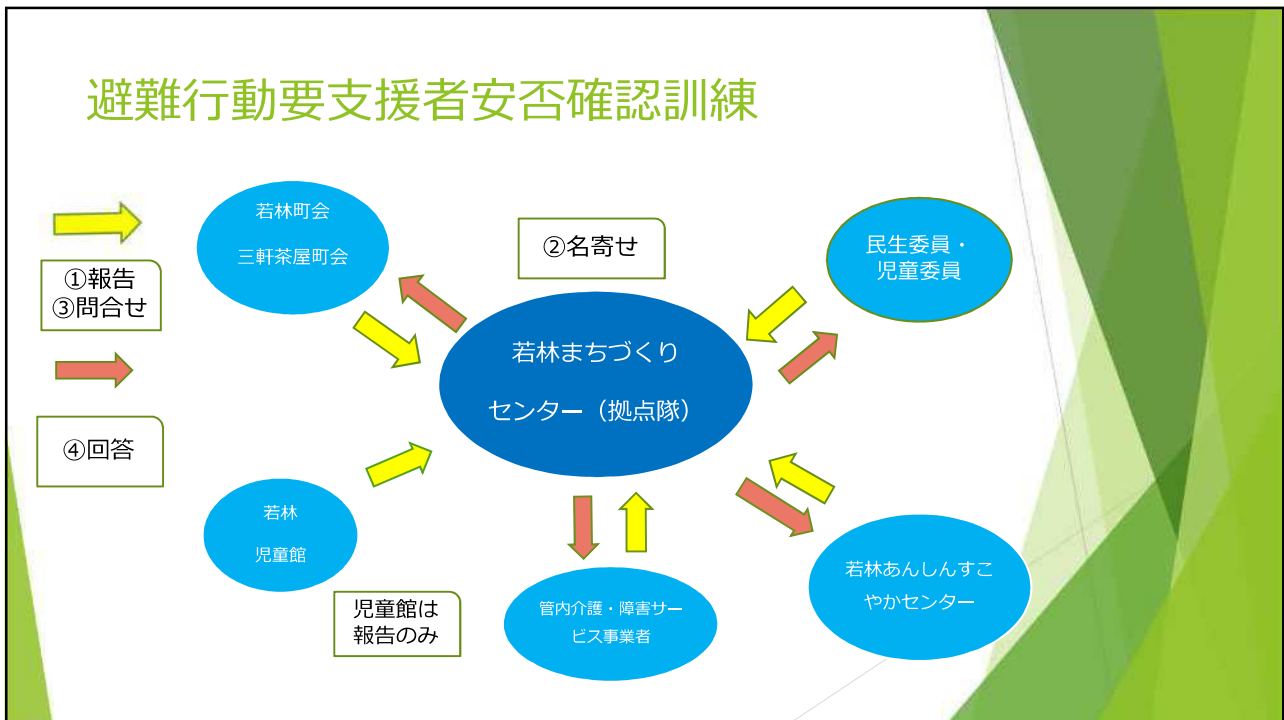
## 令和3年度 訓練の内容

- ▶ 発災想定 10月7日(木) 午前7時 震度6弱発生  
 天気：晴れ 電気・電話は通常通り使用可能  
 非常配備態勢⇒若林まちづくりセンターでは若林拠点隊を結成。  
 参加者は自分と家族の安全を確認したという想定で訓練を実施。

- ▶ 参加団体  
 若林町会および三軒茶屋町会  
 民生委員・児童委員協議会  
 若林管内の介護および障害サービス事業者  
 若林あんしんすこやかセンター  
 若林児童館  
 若林地区社会福祉協議会



## 避難行動要支援者安否確認訓練



## 報告訓練

各団体は、事前に渡した架空の訓練用名簿をもとに、団体名、訪問者名、対象者の氏名、性別、住所、災害時の報告事項（訪問日時と在宅の有無）を若林拠点隊に電話・FAX・来所により報告



若林拠点隊では、集めた安否確認情報を対象者名簿で集約（名寄せ）



## 問合せ訓練

各団体は、団体名、訪問員名を名乗り、架空の対象者氏名、性別、住所を伝え、安否確認情報（訪問時間・在宅の有無）について、若林拠点隊に問い合わせる。



若林拠点隊では、報告訓練で集約した情報をもとに、問い合わせのあった対象者の安否情報を回答する。



## 実施結果

### ▶ 参加者数

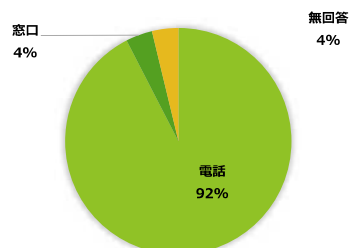
報告訓練 68名

内訳：町会38名 民生委員19名 あんしんすこやかセンター1名  
介護事業者10名

問合せ訓練 48名

内訳：町会20名 民生委員19名 あんしんすこやかセンター1名  
介護事業者8名

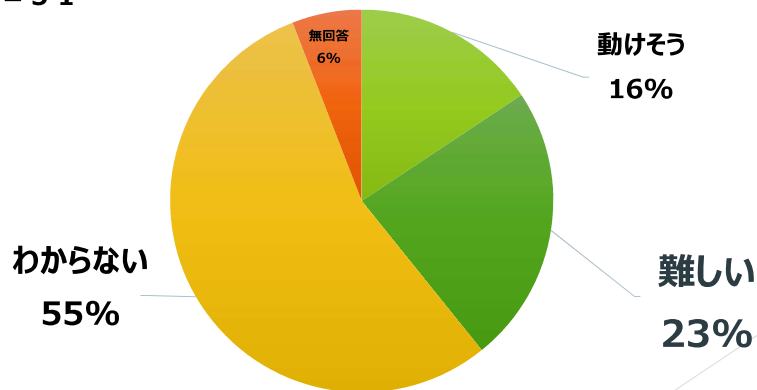
### ▶ 報告・問合せの方法





## アンケート 震度5弱以上の地震が発生した場合、訓練の通りに動けそうですか

回答数 = 51



### 「難しい・わからない」回答の理由

- ▶ 一番心配なのは、自分が動けるかどうか。次に電話が訓練の時のようにスムーズにつながるかどうか
- ▶ 大地震発生後、自分自身の状況によっては、訓練通りに動けるかわからない
- ▶ 実際に震度5弱以上の地震がおきたら、あたふたして、動けるか自信がないです。今月（10月）の夜、起きた地震では何もできなかったです。
- ▶ 通信状況や被害状況によると思うので、安否確認に時間を要するのでは、と感じます。
- ▶ 訓練で手順が練習できてますが、実際に起こる状況がわからないので...
- ▶ 自分も年齢がいくので、自分の家の人も心配です
- ▶ 自分の家族のことを始末してから、身体が動けるか不安です

## アンケート

### 訓練に参加して学んだことや気がついたことについて

- ▶ 1年に1回は担当している方のところへ訪問していますが、それ以外に今回の様な訓練は大変いいことだと思います。
- ▶ 訓練することで緊張感が持ててよかった
- ▶ 混乱している中で、どの程度の正しい情報が収集できるかわかりませんが、若林は複合施設なので要支援者のサポートの連携を期待しています。災害を乗り越えるには、まずは普段からの地域のつながりが大切だ、と改めて感じました。
- ▶ 避難行動要支援者の方々に対して、まちづくりセンターが中心となって守ろうとしている活動に賛同する。その上で、行政がどこまで動いてくれるのか説明が欲しいとも思った。
- ▶ 他地域との連携はどうなるか。区としての統一的对応が必要
- ▶ 当社で利用者の方と安否は連携できるが、ほかの個別対応に難あり。最低3日の猶予は見込まれる。まちセン、あんすこだけに頼る体制では機能しきれないでしょう

## 課題①

### 安否確認を行う団体や人材の不足

- ◆ 安否確認を行う方自体が高齢化し、負担に感じる方も多い。
- ◆ 発災時、町会の担う役割が多い（避難所開設など）
- ◆ 事業者は、営業中利用している方の対応が最優先。
- ◆ 介護事業サービス利用者は広範囲に及んでいる。



様々な団体にこの取り組みを知ってもらい、  
支援を行う側の裾野を広げていく。

## 課題② 全区的な仕組みづくり

- ◆ 今回の訓練は若林まちづくりセンター独自の取り組み
- ◆ 区全体で要支援者の安否確認情報を集約し、次の支援に結びつけるための仕組みづくりや役割分担が必要。
- ◆ 介護サービス事業者等への、取り組みの周知と連携方法の確認
- ◆ 個別避難計画とのすり合わせ



**福祉分野と防災分野が連携を図り、一体で検討していく。**

ご清聴ありがとうございました



若林地区キャラクター  
わかゆちゃん

令和3年12月20日

## 防災塾 実施報告書

世田谷総合支所地域振興課

上町 まちづくりセンター

1. 実施日 令和3年12月19日（日曜日）午前10時～11時30分
2. 会場 上町まちづくりセンター3階活動フロア
3. 参加人数 一般参加者 17人  
防災対策部会員 4人
4. テーマ これからの防災について（在宅避難、分散避難を含む）
5. 実施内容  
防災リーフレットを使った講習会  
  - (1) 災害から命を守る
  - (2) 災害発生時の上町地区をイメージしよう
  - (3) 上町地区の特性を防災目線で捉えよう
  - (4) 「在宅避難」をイメージして、備える

## 6. 成果物



講習会の様子



防災リーフレット

## 防災塾アンケート用紙（とりまとめ）

日付	12月19日
地区	上町

1-1)											
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上				
数	1	0	1	3	3	7	5				
1-2)											
	①会社員	②公務員	③団体職員	④自営業	⑤パート・アルバイト	⑥専業主婦（主夫）	⑦無職	⑧その他			
数	1	0	1	0	3	5	7	2			
2											
	①町会	②防災組織関係	③学校関係・PTA	④民生・児童委員・福祉関係	⑤まちづくり関連	⑥マンション組合	⑦商店街	⑧消防団	⑨防犯活動	⑩災害ボランティア	
数	1	7	6	0	2	3	0	0	1	2	
	⑪特にしていない	⑫その他	.								
数	5	0	.								
3											
	①している	約 1回/年 1~2回/年 3回/年 4回/年 5~6回/年	3人 1人 1人 1人 1人	約 数回 10回 70回 たくさん	1人 1人 1人 1人	約 1年間 3年間 5年間 10年間	2人 2人 2人 2人	②していない			
数	14							7			
4											
	①平成26年度	②平成27年度	③平成28年度	④平成29年度	⑤平成30年度	⑥令和元年度	⑦令和2年度				
数	3	4	8	9	8	8	6				
5											
				数				数			
①地域防災の考え方を学ぶことができた。				11	④災害時の地域の課題が、住民の視点から具体化された。			3			
②自分の地域でどのような災害が起こりうるかわかった。				11	⑤地区のいろんな方のアイデアが集まって、自分たちでできる災害対策が講じられた。			3			
③自分の地域でどの程度の被害が発生するかわかった。				11							
6											
				数				数			
①ワークショップ形式のグループで議論				6	⑤課題と対策のアイデアに関する他地区の防災活動の事例紹介			8			
②課題や対策のテーマ別に関わる関係者だけがそれぞれ集まって具体的に議論				2	⑥行政の防災担当者により防災対策の実態に関する詳しい説明			6			
③よりコアな少数のメンバーが集まって地区全体の課題と対策をより具体的に議論				5	⑦防災専門の先生や被災対応経験者を招いた防災の工夫や事例に関する防災講演			6			
④防災まちあるきや安否確認訓練などの体を動かす体験				10	⑧地域の課題と対策について、いろんな地区住民から広く意見がもらえる会合			4			
7											
				数				数			
①地区防災計画作成のガイドラインを読んだことがある。				3	④言葉は聞いたことがあるが詳しくは知らない。			10			
②他所の地区で作成された地区防災計画を読んだことがある。				4	⑤全く知らない。			2			
③防災塾で説明を聞いたことがあり、ある程度は知っている。				0							

8					
	①知っていた	②知らなかった			
数	7	12			
8-1)					
	①これまでの防災塾	②区のホームページ	③その他	・関心を持ったため	
数	3	3	2		
8-2)					
	①しっかり読んだ	②ざっと目を通した程度	③確認していない		
数	2	4	0		
9					
	①継続して参加したい	②都合がつけば参加したい	③どちらとも言えない	④あまり参加したくない	⑤まったく参加したくない
数	6	11	1	0	0
10					
<p>・最後の質問で予備避難所について聞くことができ、少し安心できました。自主避難所を住民が作れるようになればいいなと思いました。</p> <p>・防災担当ごと（避難所での班ごとという意味と思われる）のセミナーがあると良い。</p> <p>・防災担当者、関係地区相互の検討、照会にとどまっているように思う。もっとこの内容を広く公開してほしい。車中泊避難についても、反対ばかりでなく自動車関連業者（ディーラー等）を味方につけて、ポツポツ具体化すべきと考えます。</p> <p>・今回のお話は、地域に密着していてとても良かったと思う。</p> <p>・防災について学べば学ぶほど、避難所運営について自信がなくなってしまうが、生き延びて、なんとか頑張るようにしたい。</p> <p>・防災について、日ごろから行動していきたいと思った。ペットを飼っているので、在宅避難の時にエサを置いておくようにしたいと思った。</p> <p>・防災無線が聞こえないので考えてほしい。今後も防災塾の継続（たくさんやってほしい）と地区単位の避難訓練を年1回でもいいからやってほしい。</p> <p>・トイレの設置などについてより深く考えることができよかったですと思います。試算数値が思った以上に厳しいと思いました。</p> <p>・コロナ後の防災について情報発信してほしい。防災について、各学校PTAと連携した取り組みを考えてもらいたい。</p> <p>・紙おむつと同じで、水とアルファ米を1か月ごとに無料配付してほしい。</p> <p>・まだまだ知らないことや更新されている内容が多く、勉強になりました。今回に関して言えば、手元のパワーポイントの資料はカラーの方が良かったと思います。</p> <p>・なるべく敷居を低くして、多くの方が参加しやすい会にしてほしいです。</p> <p>・被災者や被害想定具体的な数字がでると気持ちも動く。消火器を買うのは簡単だが、古くなった消火器の扱いに関しては不便なところがあるため、区が有料で回収してくれる仕組みを作れば、家庭で消火器を配備するところが増えると思う。また、カセットコンロのガスボンベの処分についても区で有料で回収する仕組みがあると良い。</p>					

## 防災塾 実施報告書

世田谷総合支所地域振興課  
経堂まちづくりセンター

- (1)実施日 令和4年1月16日(日曜日)午後2時～4時
- (2)場所 桜丘区民センター 集会室兼体育室
- (3)参加人数 23人  
町会、おやじの会、消防団、大学、商店会、商業施設、介護サービス事業所、福祉施設、防災活動団体、社会福祉協議会、あんしんすこやかセンター
- (4)テーマ  
講演「在宅避難の準備」について
- (5)実施内容
1. 開会挨拶 世田谷総合支所地域振興課経堂まちづくりセンター所長 山田 武
  2. 講演 日本防災士会東京都支部理事 松井 正雄氏
  3. 質疑応答
  4. 閉会挨拶 世田谷総合支所地域振興課地域振興・防災係長 笹原 達也
- (6)成果物  
「在宅避難への準備PDF」※(後掲参照)
- (7)アンケート集計結果
- 1 本日の講習内容についてはいかがでしたでしょうか？
- ・わかりやすかった。
  - ・とてもよかった。
  - ・大変に有為な話、特に実体験に基づく話はよかった。在宅避難は大変に参考になった。ローリングストック法は大変に良いアイデアですね。役立ちますね。すぐに実行したいですね。
  - ・大変参考になりました。持ち出しの中身もきちんと確認しなければいけないなと思いました。
  - ・在宅避難の大切さを再確認できた。
  - ・あまり役に立たない。もっと現場の話を聞きたかった。
  - ・基本的な知識の再確認。地域特性の把握ができて学びが多かったです。
  - ・中身の濃い話で参考になった。
  - ・大変よかった。分かっている様で分かってない。再認識した。
  - ・ご自身の経験談や貴重な画像も多く、非常に興味深く分かりやすく聞くことができました。日常の生活にも役立つ情報や知識も多く、大変参考になりました。貴重なお話、ありがとうございました。

- ・非常に為になった。
- ・よかった。
- ・現状に即した講話でよく理解できた。防災グッズの紹介は参考になった。(実際に作成してみたい)
- ・備蓄品の対策はよいヒントになりました。避難所に行かなくても大丈夫な様に備蓄する大切さを再認識できた。
- ・実例の具体例の画像は理解しやすく、よかった。
- ・とても役に立つお話でした。
- ・実績やご経験に基づいた分かりやすいお話でした。個人の対策と企業としての対策のどちらも必要と思いました。

## 2 今後の防災を講習で受講してみたい内容がありましたら教えてください

- ・炊き出し
- ・在宅での対応をあらためて考えさせられた。
- ・水を流さないトイレなど、実際に見てみたい。
- ・在宅避難者(要配慮者)の安否確認や物資運搬の方法。
- ・コロナで仕方ないが、限られた参加者では残念である。参加者の討議が必要では？京大の鎌田先生の講義を聞きたい。
- ・BCP、福祉避難所の現実的な有用性、事例等を学びたいです。
- ・在宅避難に興味があったので、もっと深く具体的な支援についても聞きたい。
- ・避難所での対処。
- ・停電時等、ライフライン遮断時の自宅での対処、工夫。防災グッズの幅広い紹介、実演、実践。
- ・経堂地区の具体的な例・・・避難所、備蓄品と避難者の責任範囲、協定の内容の具体的な説明
- ・色々な作り方の図があるとよかった。
- ・企業のBCP対策について受講してみたいです。

## 3 ご意見(自由意見)ございましたらお願いします

- ・自助の話をもっと周知できるといいですね。また、避難所の確認はしていきたいです。
- ・ストックの方法、必要なもの全てを用意しておく必要性の欠如→個人が確保する事。役所頼みではないはず。
- ・町会の皆さん全員に、今回のような情報を伝えるにはどうしたらよいか考えさせられました。
- ・避難に加えて、コロナへの配慮があり、色々難しい問題が増えていますよね。考えなければいけないことは多く、頭が痛いです。



- ・一般的な話ではなく、現実的な話を。例えば、在宅避難者の支援と避難所運営との包括的支援をどうするか、といった様なことを考える講座の実施を望みます。
- ・災害時の水の確保はどうする？
- ・建前でなく本音で区の姿勢を発信してほしい。
- ・〈要望〉 松井先生の講演の動画(ビデオ)を配信して頂きたい。社内研修等で活用。クラブ会員への普及活動への活用。
- ・①質問や回答はメモを取れないので簡潔にしてほしい。②最後の挨拶で色々言う場合は、資料を作り、講義として言ってほしい。メモがとれない。
- ・シェイクアウト訓練をより一層周知する意味でも、各町会でも取り組んでいきたい。そのためにもまちセンで周知してほしい。
- ・避難所の設備のキャパシティ情報をできるだけ詳細に公開することで、在宅避難を大々的に促す方向性を明確にすることも必要かと。
- ・経堂地区では火災の大規模災害が心配なので、重点を火災に置いて対策を知りたい。
- ・区民に対する啓発が必要と感じました。→企業内でも啓発をしていきたいです。備蓄品や協定など有事の時に生きる備えが大切だと思いました。

計 18 件

## (8) 質疑応答・自由意見

- ・浸水の可能性がある宮坂区民センターが水害時避難所に指定されているのはどうなのか

⇒支所など関係機関と協議のうえ最善策を検討していく

- ・避難所に備蓄の水は粉ミルク用という事だが、区の給水場所は和田掘など遠い

⇒避難所にスタンドパイプによる応急給水栓が設置され、また、半径 2 キロ以内に都の給水施設がございます。具体的には、この桜丘区民センターから 1.7 キロ先の船橋 6 丁目の区立よし根公園です。

- ・発電機用のガソリンは保管量が制限されている。ガソリンスタンドも少なくなっている
- ので、発電ができなくなるのでは。消防団の車のガソリン補給は心配だ。

⇒消防署など関係機関にご意見を伝える

(9) 世田谷総合支所地域振興課 地域振興・防災 笹原係長挨拶

・災害対策基本法の改正や令和元年台風19号等の教訓を踏まえ、区としましても避難行動要支援者の安否確認が最重要課題となっております。

今後、避難行動要支援者に対する個別避難計画を策定するにあたり、防災と福祉との連携が求められています。

具体期には、経堂地区では、まちづくりセンター、あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会による三者連携会議や介護事業者の方との勉強会において情報共有しております。地域の皆様方のご協力を宜しくお願いいたします。

【講義】



【質疑応答】



## 防災塾 実施報告書

世田谷総合支所地域振興課  
下馬まちづくりセンター

- (1) 実施日 令和3年11月13日(土曜日) 午前10時～12時
- (2) 場所 下馬区民集会所3階会議室
- (3) 参加人数 51人  
(区民44名、せたがや防災NPOアクション2名、区職員5名)
- (4) テーマ  
在宅避難とコロナ禍における避難所のあり方・運営
- (5) 実施内容
- ①開会挨拶  
下馬地区町会自治会連合会長 田嶋 宏  
下馬まちづくりセンター所長 根本 淳子
- ②講演  
講師：せたがや防災NPOアクション 宮崎 猛志氏
- ・ コロナ禍の避難所運営に対する備え、検討することについて
  - ・ 被災者支援拠点としての避難所のあり方について
  - ・ 在宅避難をするための家庭の備えについて
- ③意見交換及び発表  
「在宅避難をするため、わが家で備えることを考えて、みんなで共有しよう！」  
をテーマに、避難所ごとの班に分かれて実施
- ④質疑応答
- ⑤閉会挨拶  
下馬地区身近なまちづくり推進協議会生活環境防災部会長 小松 岑生
- (6) 成果物  
写真、アンケート集計表

## 令和3年度 下馬地区防災塾 写真



講演



講演



意見交換



意見交換



発表



発表

防災塾アンケート用紙（とりまとめ）													
<table border="1"> <tr> <td>日付</td> <td>令和3年11月13日</td> </tr> <tr> <td>地区</td> <td>下馬</td> </tr> </table>										日付	令和3年11月13日	地区	下馬
日付	令和3年11月13日												
地区	下馬												
1-1) ご自身について（性別）		1-2) ご自身について（年齢）											
①男性	②女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上				
数	28	13		1	1	4	6	19	7				
1-3) ご自身について（職業）													
①会社員	②公務員	③団体職員	④自営業	⑤パート・アルバイト	⑥専業主婦	⑦無職	⑧その他						
数	2	3	5	4	3	4	15	1					
2 日ごろから参加している地域活動について													
①町会・自治会	②防災組織関係	③学校関係・PTA	④民生・児童委員・福祉関係	⑤まちづくり関連	⑥マンション組合	⑦商店街関係	⑧消防団	⑨防犯活動	⑩災害ボランティア				
数	31	14	7	5	9	1		4	8				
⑪特にしていない	⑫その他	・高齢者クラブ ・赤十字											
数		2											
3 地域の防災取り組みや活動に参加・活動していますか。													
①している	・約1～3回/年：18名 ・約4～7回/年：8名 ・約10～12回/年：6名					・約半～1年間：6名 ・約2～3年間：2名 ・約5～8年間：8名 ・約10年間：4名 ・約15年間：2名 ・約20年間：1名 ・約30年間：1名 ・約37年間：1名			②していない				
数	39												
4 今まで参加した防災塾の開催年度について													
①平成26年度	②平成27年度	③平成28年度	④平成29年度	⑤平成30年度	⑥令和元年度	⑦令和2年度							
数	13	13	15	22	23	21	21						
5 防災塾に参加して、地域防災について十分な意見交換や議論ができたと思いますか。													
①十分できている	②ややできている	③どちらとも言えない	④あまりできていない	⑤まったくできていない									
数	11	19	3	3									
6 上記の「5」の理由をご自由にご記入ください。													
・各団体の意見が聴ける。 ・自身の問題として考えられない。 ・他の町会の意見を参考にできる。													
・在宅避難について考え方を話し合う必要ありと痛感しました。 ・それぞれの町会での取り組みがすすんでいるので。													
・ワークショップでは、皆さんが思い込んでいることが多かったようで、たくさんご意見が出ていました。													
・地域の方の意見が聞けたこと。 ・グループ分けしての意見交換でしたので、参加者それぞれが自分の意見を述べる機会ができたと思います。													
・在宅避難の事が良く理解できました。 ・時間が足りない。 ・意見交換の時間が短く、皆様の意見を充分に聞くことが出来なかった。													
7 防災塾に参加して学んだことや気づいたこと													
	数		数										
①地域防災の考え方を学ぶことができた。	33	④災害時の地域の課題が、住民の視点から具体化された。	14										
②自分の地域でどのような災害が起こりうるかわかった。	10	⑤地区のいろんな方のアイデアが集まって、自分たちでできる災害対策が講じられた。	20										
③自分の地域でどの程度の被害が発生するかわかった。	9	⑥参加した地域のいろんな方と関係性が作られた。	15										
8 今後の希望する「防災塾」の進め方について													
	数		数										
①今までと同じく、ワークショップ形式のグループで議論	21	⑤課題と対策のアイデアに関する他地区の防災活動の事例紹介	13										
②課題や対策のテーマ別に関わる関係者だけがそれぞれ集まって具体的に議論	14	⑥行政の防災担当者により防災対策の実態に関する詳しい説明	16										
③よりコアな少数のメンバーが集まって地区全体の課題と対策をより具体的に議論	6	⑦防災専門の先生や被災対応経験者を招いた防災の工夫や事例に関する防災講演	21										
④防災まちあるきや安否確認訓練などの体を動かす体験	14	⑧地域の課題と対策について、いろんな地区住民から広く意見がもらえる会合	12										

9 地区防災計画制度がつくられたが、本制度の内容はご存知ですか。				
	数			数
①地区防災計画作成のガイドラインを読んだことがある。	18		④言葉は聞いたことがあるが詳しくは知らない。	6
②他所の地区で作成された地区防災計画を読んだことがある。	9		⑤全く知らない。	5
③防災塾で説明を聞いたことがあり、ある程度は知っている。	12			
10 平成29年3月より、地区防災計画を区HPに掲載していますが、ご存知ですか。				
	①知っていた	②知らなかった		
数	26	11		
10-1 地区防災計画を知った経緯について				
	①これまでの防災塾	②区のホームページ	③その他	
数	25	6	2	・現物をいただいた。
10-2 公開された地区防災計画の内容は確認されましたか。		10-3 防災塾での議論が、地区防災計画にどの程度反映されていると思うか。		
	①しっかり読んだ	②ざっと目を通した程度	③確認していない	
数	6	23	2	
			①まったく反映されていない	②あまり反映されていない
			③どちらとも言えない	④やや反映されている
				⑤十分反映されている
数			5	12
				7
				1
11 地区防災計画の今後の見直し・検証において、重点的に実施したいと思うこと				
	数			数
①地域の課題に対し、防災まちあるきを通じた危険箇所や地域資源の発見と整理	13		④検討した対策の実現に向け、地区全体の具体的なルールづくりや担当決め	9
②初期消火や要配慮者支援等の地域の課題別の防災マップ作成	14		⑤計画に記載している課題と対策に加え、より多くの住民視点からの課題と対策の追加	9
③検討した対策の実現に向け、協力関係者への声かけと対策方法に関する話し合い	19		⑥避難訓練、消火訓練等、災害時の対策が実現できるか体を動かした検証（実践）	11
<その他>				
12 防災塾に継続して参加したいと思いませんか。				
	①継続して参加したい	②都合がつけば参加したい	③どちらとも言えない	④あまり参加したくない
数	23	14	1	
				⑤まったく参加したくない
13 防災塾や地区防災計画に関するご意見・ご感想など、ご自由にご記入ください。				
・専門の人のお話は、情報を得たり再確認できたりして大変役に立ちます。 ・大変よくわかりました。ありがとうございました。				
・地域の防災に対する「自分ごと」との意義は、この20年余りの間、格段に高まってきた（少なくとも中心になっている方々にとって）と感じます。行ってきたことに意味があると思います。さらに地域全体に広めていく方法を試行錯誤できればと考えます。				
・御準備等おつかれ様でした。宮崎さんのお話は具体的な案もあり、とても良かったです。				
・コロナ終息後、多くの人（特に若い人）が参加出来る様に知らせる方法が必要。 ・良い。必要だと思いました。 ・有意義な会だと思います。				
・とても勉強になりました。ありがとうございました。 ・下馬は水害もあり、水に対するお話ししてほしかった。				
・区内でも町会によって防災に関して抱えている課題が異なる事が再確認できた。 ・またやってほしい。新しい情報を知ることが出来て良かった。				
・防災（町会のお知らせ全般についても）に無関心な人が多い。この人達に関心を持ってもらうには何をしたら良いのか？永遠のテーマです。				



## 防災塾 実施報告書

世田谷総合支所地域振興課

上馬まちづくりセンター

- (1) 実施日 令和3年11月28日(日曜)午後2時～4時
- (2) 場所 上馬まちづくりセンター活動フロア
- (3) 参加人数 21名(一般16名、区職員5名)
- (4) テーマ
  - i 講演「災害時における薬について」
- (5) 実施内容
  - ①区説明
    - ・上馬地区防災計画について
  - ②講演
    - ・講師 一般社団法人世田谷薬剤師会 顧問 小林 哲男 薬剤師
  - ③質疑応答
- (6) 成果物
  - 写真
  - 次第
  - 災害への備えチラシ

## 令和3年度 上馬地区防災塾 写真



挨拶



講演



講演



講演



講演

# 令和3年度上馬地区防災塾スケジュール

令和3年11月28日(日)

上馬まちづくりセンター活動フロア

開 会					14:00
1	あいさつ	上馬地区町会連合会 上馬地区区民防災会議	会長 代表	白須 勝敏	
		上馬まちづくりセンター	所長	村上 陽一	
2	参加者ご紹介				
3	上馬地区防災計画について				14:05
		上馬まちづくりセンター		まちづくり・防災担当係長	
4	講演 「災害時の医薬品について」				14:10
		一般社団法人 世田谷薬剤師会	顧問	小林 哲男 先生	
5	質疑応答				15:40
	アンケート記入				
閉 会					16:00

時間は予定





# 災害への備え

## ～災害のとき“薬”はどうするの？～

地震などの災害はいつ起きるかわかりません。災害時にそなえてお薬の準備を進めておきましょう。

### どんな薬があればいいの？

今までの災害の例から救急箱に必要なお薬の例をあげてみました。

**風邪薬** 被災して数日後から疲労・ストレスや昼夜の温度差などにより体力低下を起こし、風邪をひきやすくなります。

**便秘薬** 不自由な生活でトイレもままならず、我慢を余儀なくされた結果便秘になりがちです。

**胃腸薬** 疲労・ストレスにより食欲不振・下痢などをおこしやすくなり、症状にあわせた胃腸薬が必要となります。

**湿布薬** 打身・打撲には冷湿布、痛みや腫れが強いときの為に痛み・炎症を抑える成分がはいった湿布薬を用意しておくといいでしょう。

### 消毒薬・化膿止め軟膏

傷に対しては菌が繁殖しない様に消毒薬と化膿止（抗生物質）の軟膏が必要となりますが、化膿止を使用する際には、傷口を消毒薬でかならず清潔にしてから化膿止めを塗るようにして下さい。

**点眼薬** がれきやホコリが蔓延している中で生活しているので、目の汚れ・疲れをとるための目薬（例えばドライアイ用の目薬）、並びに眼の感染症防止用に抗菌作用のある目薬があるとよいでしょう。

### 薬を使うとき、どんなことに注意したらいいの？

救急箱に入れる常備薬は、お年寄りからお子さんまで、皆さんが安心して使えるものでないと困ります。

#### ●お薬は家族の皆さんが安心して服用できるものを！

**風邪薬**・・・緑内障の方がのんではいけない場合があります。また、オシッコの出が悪く病院や診療所で治療中の方などは、風邪薬に含まれる成分（例えば鼻水やアレルギーをおさえる成分）に注意が必要です。お子さんの薬は単純に大人の半分の量で服用でない場合もあり、お子さんでも服用できる薬であることを確認しておく必要があるでしょう。

**湿布薬**・・・湿布薬に含まれる成分や自分の汗が刺激になり、かぶれる方もいます。特に痛み・炎症を抑える成分が入った湿布薬は（含まれる成分の種類によって）湿布薬をはがした後、患部に直射日光を当てると、酷く日焼けをした時のように赤く腫れること（光線過敏症）がありますので注意が必要です。また喘息をお持ちの方は痛み・炎症を抑える成分の作用で喘息発作を起こしてしまう場合もありますので、原則として使用しないで下さい。

#### お薬を選ぶ際にはぜひ薬剤師にご相談を！！

#### ●薬の使用期限を確認しましょう。

目薬を例に上げますと、使用期限が1年先であっても開封後は速やかな使用をお奨めします。特に目薬は先端を“まつげ”や“まぶた”につけてしまう、また“指で触ってしまう”と汚染しやすいお薬ですので、そのような事が無いように注意が必要です。





## お医者さんにお薬を処方してもらっている方へ

### ●服用薬(使用薬)にゆとりを!

地震などの災害時には医療機関で診察ができなくなる可能性があります。もらっているお薬の中から最低3日～7日分のお薬を余分に持っていることをお勧めします。また、外で被災した時の為に外出の際は3日分ほど携帯するとさらに安心です。

### ●お薬手帳を持ちましょう。

「お薬手帳」と「お薬の情報提供文書」がとても役に立ちます。

「お薬手帳」はいま服用している薬がわかるだけでなく、服用の経過を見ることで患者さんの病気の状態を知る手立てにもなり、“医師の先生方にとっても大切な情報源”になります。また常備薬を求める際にもお薬の“のみ合わせ”などが分かりますのでとても役立ちます。お薬手帳をお持ちでない方は保険薬局で作ってもらえますので是非かかりつけの薬剤師にお尋ね下さい。すでにお薬手帳をお持ちの方でも常に携帯しているとは限りません。特に医療機関に継続してかかられている方は保険証と一緒にしておき、いつも持っている事をお勧めします。

尚、お薬の情報提供文書には、詳細な情報も記載されていますのでお薬手帳と共に携帯して頂ければ、より薬に立ちます。

### ●処方薬は絶対に他の人にあげない!

処方せんによるお薬はお医者さんが患者さん一人一人に合わせて処方しているものです。もし、薬があわない方が服用した場合にどんな事故がおきるかわからず大変危険です。

### ●お薬は症状に合わせて服用してください。

皆さんの顔がそれぞれ違う様に薬の効き方、副作用の出方もそれぞれです。災害時に関わらず、ご自身のお薬情報やお子さんのお薬情報を把握して安全に薬を使用してください。

お薬についての疑問やご相談は保険薬局のかかりつけ薬剤師にお気軽にご相談ください!



制作：世田谷保健所健康企画課 電話：5432-2433 FAX：5432-3022  
監修：世田谷区薬剤師会

防災塾アンケート用紙（とりまとめ）													
<table border="1"> <tr> <td>日付</td> <td>11・28</td> </tr> <tr> <td>地区</td> <td>上馬地区</td> </tr> </table>										日付	11・28	地区	上馬地区
日付	11・28												
地区	上馬地区												
1-1) ご自身について（性別）		1-2) ご自身について（年齢）											
	①男性	②女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上			
数	9	7				1	2	3	8	2			
1-3) ご自身について（職業）													
	①会社員	②公務員	③団体職員	④自営業	⑤パート・アルバイト	⑥専業主婦	⑦無職	⑧その他					
数			2	1	3	3	6	1					
2 日ごろから参加している地域活動について													
	①町会・自治会	②防災組織関係	③学校関係・PTA	④民生・児童委員・福祉関係	⑤まちづくり関連	⑥マンション組合	⑦商店街関係	⑧消防団	⑨防犯活動	⑩災害ボランティア			
数	13	6	2	4	2			1					
	⑪特にしていない	⑫その他	・ ・ ・										
数	1												
3 地域の防災取り組みや活動に参加・活動していますか。													
	①している	・回数 1回/年 4人 ・2回～4回/年 6人 ・5回～/年 2人							②していない				
数	14	・経歴 約2～4年 2人 ・5年以上 5人								2			
4 今まで参加した防災塾の開催年度について													
	①平成26年度	②平成27年度	③平成28年度	④平成29年度	⑤平成30年度	⑥令和元年度	⑦令和2年度						
数	3	3	3	4	6	5		令和2年度は開催なし					
5 防災塾に参加して、地域防災について十分な意見交換や議論ができたと思いますか。													
	①十分できている	②ややできている	③どちらとも言えない	④あまりできていない	⑤まったくできていない								
数	1	8	2	3									
6 上記の「5」の理由をご自由にご記入ください。													
（ややできている）「講師の話を理解した」													
（どちらとも言えない）「今回は医薬品についての講義が主であったため」「防災に関する意見交換の場が欲しい」													
（あまりできていない）「情報提供が主になりディスカッションの時間がない」「具体的な想定のもと話し合う機会がない。若年層やファミリー層に届く設定													
（なっていない）「町会内の体制ができていない」													
7 防災塾に参加して学んだことや気づいたこと													
		数			数					数			
①地域防災の考え方を学ぶことができた。		6	④災害時の地域の課題が、住民の視点から具体化された。		2								
②自分の地域でどのような災害が起こりうるかわかった。		7	⑤地区のいろんな方のアイデアが集まって、自分たちでできる災害対策が講じられた。		4								
③自分の地域でどの程度の被害が発生するかわかった。		7	⑥参加した地域のいろんな方と関係性が作られた。		3								
8 今後の希望する「防災塾」の進め方について													
		数			数					数			
①今までと同じく、ワークショップ形式のグループで議論		4	⑤課題と対策のアイデアに関する他地区の防災活動の事例紹介		3								
②課題や対策のテーマ別に関わる関係者だけがそれぞれ集まって具体的に議論		4	⑥行政の防災担当者により防災対策の実態に関する詳しい説明		6								
③よりコアな少数のメンバーが集まって地区全体の課題と対策をより具体的に議論		2	⑦防災専門の先生や被災対応経験者を招いた防災の工夫や事例に関する防災講演		8								
④防災まちあるきや安否確認訓練などの体を動かす体験		5	⑧地域の課題と対策について、いろんな地区住民から広く意見がもたれる会合		3								



9 地区防災計画制度がつくられたが、本制度の内容はご存知ですか。								
			数		数			
①地区防災計画作成のガイドラインを読んだことがある。			2	④言葉は聞いたことがあるが詳しくは知らない。	3			
②他所の地区で作成された地区防災計画を読んだことがある。				⑤全く知らない。	2			
③防災塾で説明を聞いたことがあり、ある程度は知っている。			4					
10 平成29年3月より、地区防災計画を区HPに掲載していますが、ご存知ですか。								
	①知っていた	②知らなかった						
数	7	3						
10-1 地区防災計画を知った経緯について								
	①これまでの防災塾	②区のホームページ	③その他	・				
数	5	2		・				
10-2 公開された地区防災計画の内容は確認されましたか。			10-3 防災塾での議論が、地区防災計画にどの程度反映されていると思うか。					
	①しっかり読んだ	②ざっと目を通した程度	③確認していない	④まったく反映されていない	⑤あまり反映されていない	⑥どちらとも言えない	⑦やや反映されている	⑧十分反映されている
数		6			1	5		
11 地区防災計画の今後の見直し・検証において、重点的に実施したいと思うこと								
			数					数
①地域の課題に対し、防災まちあるきを通じた危険箇所や地域資源の発見と整理			2	④検討した対策の実現に向け、地区全体の具体的なルールづくりや担当決め				3
②初期消火や妻配慮者支援等の地域の課題別の防災マップ作成			4	⑤計画に記載している課題と対策に加え、より多くの住民視点からの課題と対策の追加				3
③検討した対策の実現に向け、協力関係者への声がけと対策方法に関する話し合い			3	⑥避難訓練、消火訓練等、災害時の対策が実現できるか体を動かした検証（実践）				2
<その他>								
12 防災塾に継続して参加したいと思いませんか。								
	①継続して参加したい	②都合がつけば参加したい	③どちらとも言えない	④あまり参加したくない	⑤まったく参加したくない			
数	6	6						
13 防災塾や地区防災計画に関するご意見・ご感想など、ご自由にご記入ください。								
地域の特性に合わせ掘り下げた会を実施願いたい。								